

# 美術科学習指導案

令和5年 月 日( ) 時間目

中学校 3年 組 名

指導者

1 題材名 私のしるし ～てん刻～

「A表現」(1)イ、(2)ア、「B鑑賞」(1)ア、イ、「共通事項」(1)ア、(1)イ

## 2 題材設定の理由

### ①生徒観

本学級の生徒は、1年次でレタリングを用いた文字を表現するデザインを学び、ポスターカラーで絵文字のデザインの活動を行った。その学習を通して、字体の違いが見る者に異なる印象を与えることを理解しており、自分の名前やイメージに合った文字のデザインを考えたり、選択したりすることができると思う。美術科の授業に対しては説明や指示をよく聞き、楽しく取り組むことができる。しかし、他者と比べて、自分の発想した独自のアイデアが稚拙ではないかと気にして、表現に自信をもつことが難しい生徒もいる。

### ②題材観

本題材で取り上げる篆刻は、石や木などに篆書体の印を刻する行為である。書や絵画などのサインとしても使用されている。それらが書画を引きしめる役割を果たす効果などを感じ取り、自分の表現したい文字のデザインは、朱文・白文のどちらが合っているか考えられるようにしたい。また、文字のデザインとして、篆書体の他にも、様々な字体から自分のイメージに合ったデザインを構想し、文字の形や配置、枠などを自分なりの思いやイメージをしっかりともったうえで表現できるようにしたいと考え、本題材を設定した。

### ③指導観

自己の独自性を「名前」という個人的な名称に重ね、自分の個性を形や余白・バランスに表すことで自分自身のよさを再認識し、自信をもって、創造的で独創的な表現を行うことができるようにしたい。印面をデザインする際に MetaMoji Classroom を使用することにより、多様な字体のデザインの中から自分の表現に合うものを選択し、何度でも簡単に修正し試行錯誤することができるようにする。また、印面を彫る際には、印刀の正しい使い方を説明し、作業台に印材を固定して安全に制作を行うことができるように指導する。印の完成後は、友達の色紙に押印することで中学校の思い出として残し、色紙を見て仲間を思い出すことができる記念作品を制作する時間としたい。

## 3 題材の目標

### (1)「知識及び技能」に関する題材の目標

- ・フォントの形や朱文・白文の余白などの印面の構成が感情にもたらす効果について理解する。(共通事項)
- ・材料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に彫って表す。(「A表現」(2))

### (2)「思考力、判断力、表現力等」に関する題材の目標

- ・自分の名前の意味や形、イメージなどから主題を生み出し、全体と部分の関係を考えながら構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練る。(「A表現」(1))
- ・友達の作品を鑑賞し、造形的な美しさを感じ取り、工夫や表現の意図を考えることができる。

(「B鑑賞」(1))

(3)「学びに向かう力、人間性等」に関する題材の目標

- ・美術の創造活動の喜びを味わい、時代を超えて印鑑が受け継がれてきた意味合いや、使用される場面、諸外国との違いを主体的に考え、活動に取り組む。(「B鑑賞」(1))

4 題材の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<p><b>技</b>材料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に彫って表している。</p> <p><b>知</b>フォントの形や朱文・白文の余白などの印面の構成が感情にもたらす効果について理解することができる。</p>	<p><b>発</b>自分の名前の形や意味、イメージなどから主題を生み出し、全体と部分の関係を考えながら構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。</p>	<p><b>態鑑</b>美術の創造活動の喜びを味わい、時代を超えて印鑑が受け継がれてきた意味合いや、使用される場面、諸外国との違いを主体的に考え、活動に取り組もうとしている。</p>

5 指導と評価の計画 (全11時間)

時間	学習のねらい	生徒の活動	留意点等[評価方法]
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 印鑑はどのような場面で使われ、どのような意味があるのかを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 印鑑はどのような場面で使われ、どのような意味があるのかを知る。</li> </ul>	<p>◎<b>態鑑</b>・・・どのような場面で押印したことがあるか具体的に示しながら指導を行う。</p> <p>【発言の内容、ワークシート】</p>
2~3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 印面のアイデアスケッチを考える。</li> <li>・ 字体・配置・わくの効果など、形が感情にもたらす効果を考える。</li> <li>・ 朱文・白文のもつ形や余白・バランスが感情にもたらす効果を考える。</li> <li>・ 自分の感情や思いから発想を広げ、形や色を工夫して構想を練る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 印面のアイデアスケッチについて構想を練る。</li> <li>・ 字体・配置・わくの効果について考える。</li> <li>・ 朱文・白文のもつ形や余白・バランスの効果について考える。</li> </ul>	<p>◎<b>発</b>・・・自分の名前から主題を生み出し、字体・配置・わくの形が書面を引き締める効果や、分かりやすさと美しさの調和を考え、表現の構想を練っているかを評価する。</p> <p>【活動の様子・ワークシート】</p>
4~6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 印面を材料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に彫って表している。</li> <li>・ 印刀や耐水ペーパーなど、道具の使い方を理解し、正しく使う。</li> <li>・ 友達の作品を鑑賞し、造形的な美しさを感じ取り、工夫や表現の意図を考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ カーボン紙を使い、アイデアスケッチを印材に写す。</li> <li>・ 自分の表現方法を追求して印面を彫る。</li> <li>・ 印刀や耐水ペーパーなど、道具の使い方を理解し、正しく使う。</li> <li>・ 友達の作品を鑑賞し、造形的な美しさを感じ取り、工夫や表現の意図を考える。</li> </ul>	<p>○<b>技</b>・・・主体的に表現方法を創意工夫しようとしたり、見通しをもって表そうとしたりする態度を見取り、できていない生徒に対しては、必要に応じて修正し、彫り方の指導などを行う。</p> <p>【作品・活動の様子】</p>
7~10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の感情や思いから発想を広げ、持ち手の形を工夫して表す。</li> <li>・ 持ち手の材料や用具の特性を生かし、機能や意図に応じて自分の表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 持ち手のアイデアスケッチについて構想を練る。</li> <li>・ 自分の表現方法を追求して持ち手を彫る。</li> </ul>	<p>○<b>技</b>・・・形などが感情にもたらす効果を生かし、意図に応じて表現方法を創意工夫し、制作の順序などを総</p>

	<p>現方法を追求して創造的に彫って表している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ やすりなど、道具の使い方を理解し、正しく使う。</li> <li>・ 友達の作品を鑑賞し、造形的な美しさを感じ取り、工夫や表現の意図を考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ やすりなど、道具の使い方を理解し、正しく使う。</li> <li>・ 友達の作品を鑑賞し、造形的な美しさを感じ取り、工夫や表現の意図を考える。</li> </ul>	<p>合的に考えながら表しているかを見取る。できていない生徒には発想や構想を確認させたり、ほかの生徒の作品を紹介したりし、表現の工夫について考えさせる。</p> <p>【作品・活動の様子】</p>
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友達の作品を鑑賞し、さまざまな作品から表現のおもしろさを感じ取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一人一枚色紙に押印する。</li> <li>・ 振り返りとして、制作の感想や、友達の印鑑を鑑賞した感想を書く。</li> </ul>	<p>◎<b>態鑑</b>・・・作品の造形的な美しさをよさや美しさを感じ取り、作者の心情や、表現の意図と創意的な工夫などについて考え、見方や感じ方が深められているかをワークシートで見取り、評価する。</p> <p>【活動の様子・ワークシート】</p>

○題材の評価規準に照らして、適宜、生徒の学習状況を把握し指導に生かす。

◎題材の評価規準に照らして、全員の学習状況を把握し記録に残す。

## 6 本時の指導（3/11）

### （1）目標

自分のイメージに合った印面のデザインを、全体と部分の関係や、形や余白・バランスが感情にもたらす効果を考えて表現する。

### （2）展開

時間	学習内容	指導上の留意点	評価方法の留意点等
5分	1 前時の振り返りを行う。	「字体・配置・わく」のポイントを復習する。	朱文と白文の違いが認識できているか。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>目標 自分のイメージに合うように印面のデザインをよりよく工夫しよう。</p> </div>			
10分	2 前時で制作した作品をグループごとに紹介し多様な表現方法があることを知る。 自分がいいなと感じた作者名を自己評価シートに書く。	朱文と白文の意味を示す。 友達の作品を見て、字体や配置・朱文や白文の余白やバランスが、感情にもたらす効果を考えることができるように声かけを行う。	友達の作品を見て、自己評価シートに字体・配置・わく、朱文や白文の形や余白・バランスが感情にもたらす効果を感じ取り、書くことができているか。
5分	3 「手描き」の方法を知る。	タブレットを使う場合のルールを確認する。手描きでも制作してもよいことを伝える。	ワークシートの手順通りタブレットを操作しているか。

20分	4 ワークシートの枠の中に朱文・白文で表現する。	操作方法を具体的に知らせる。	自分の名前から主題を生み出し、字体・配置・わくの形が書面を引き締める効果や、分かりやすさと美しさの調和を考え、表現の構想を練っているか。
5分	5 フォントを選んだ理由や工夫した点も考え、ワークシートに書き込む。	フォントを選んだ理由や工夫した点の例を提示する。 デザインがよりよくどのような工夫ができたかを MetaMoji Classroom に記録できるようにする。	アイデアスケッチでフォントを選んだ理由や工夫したことを基に評価を行う。
5分	6 クラスルームへ保存を行い、次回の予告と準備物の確認をする。	次回の予告を行うことで作品に見通しをたてることができるようにする。	各自のタブレットに保存できているか確認する。

### (3) 評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断される状況	ワークシートのデザインを4点以上仕上げている。 文字のフォントを選んだ理由や、朱文・白文、工夫したことなど、それらが感情にもたらす効果を部分や全体のイメージから感じ、自分の作風を表すものを答えることができる。
「概ね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	色調やフォントの形からどのような効果が得られると考えているか問いかける。表現したい形や効果を実現することができるように効果的な使用法を例示する。